

経営比較分析表

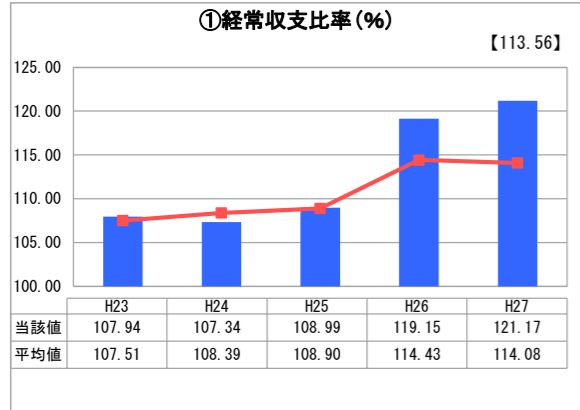
埼玉県 狭山市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A2
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	85.67	99.28	2,214

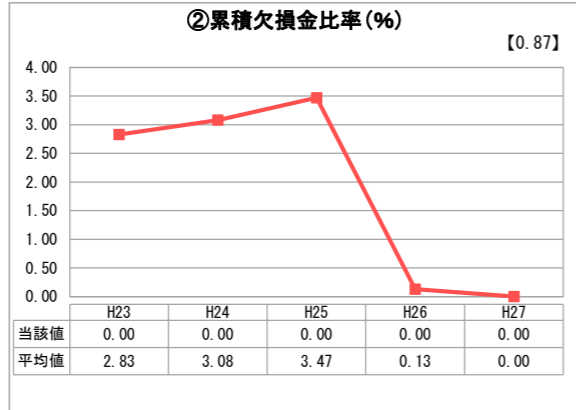
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
153,738	48.99	3,138.15
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
152,410	46.26	3,294.64

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[]	平成27年度全国平均

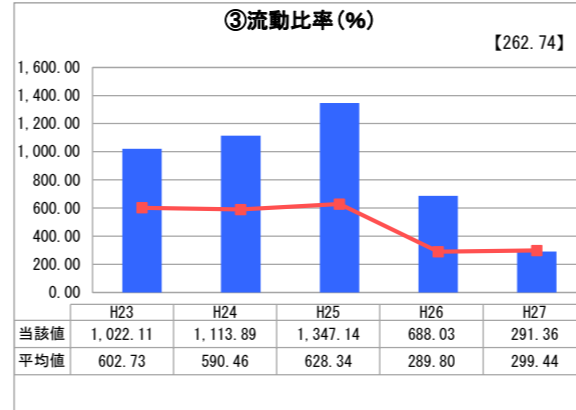
1. 経営の健全性・効率性



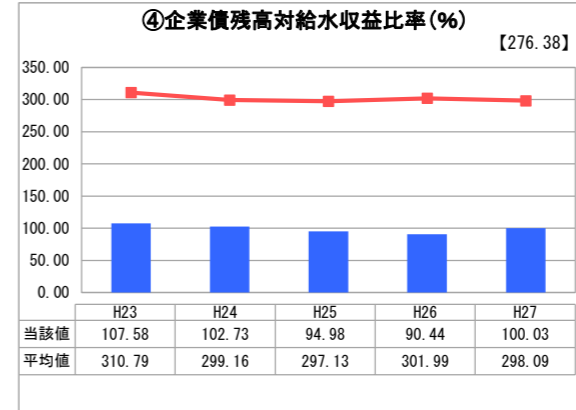
「経常損益」



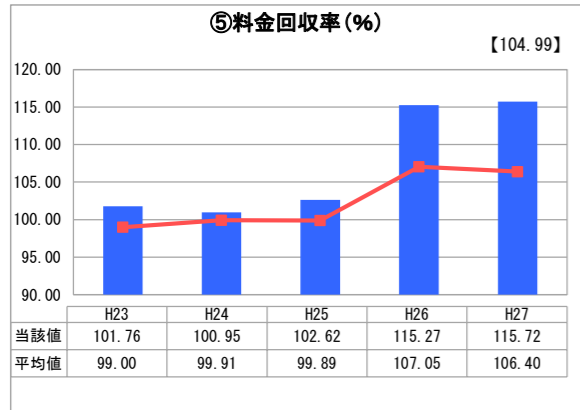
「累積欠損」



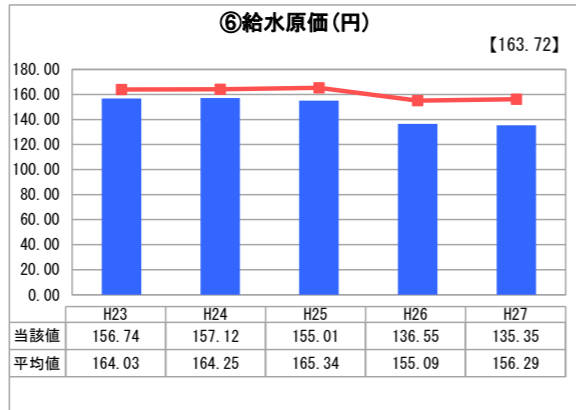
「支払能力」



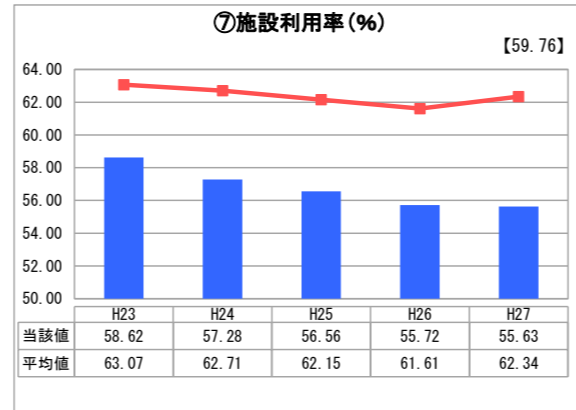
「債務残高」



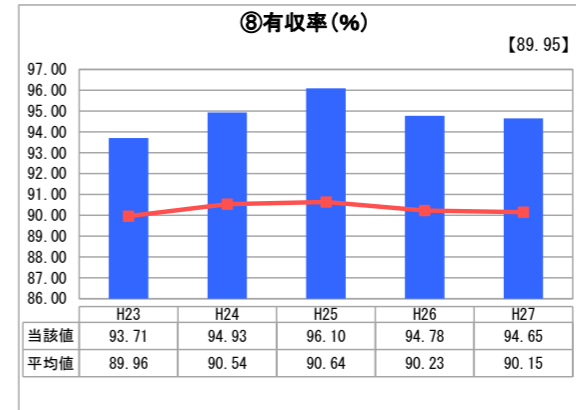
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

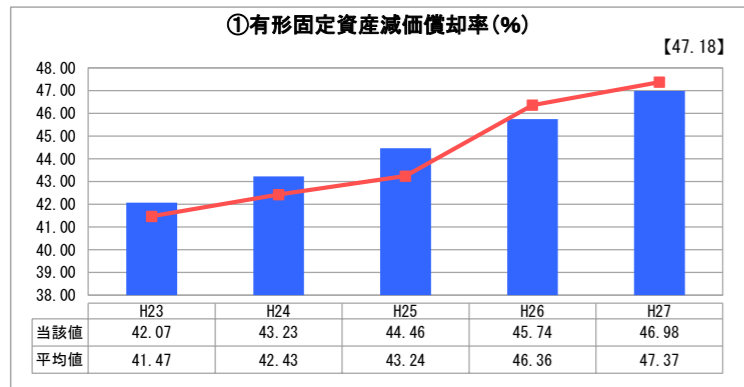


「施設の効率性」

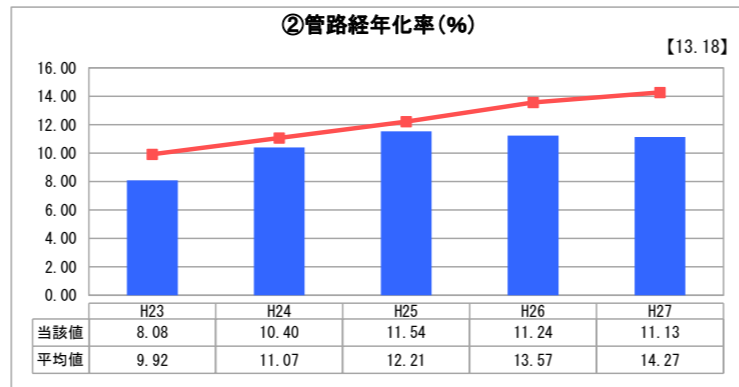


「供給した配水量の効率性」

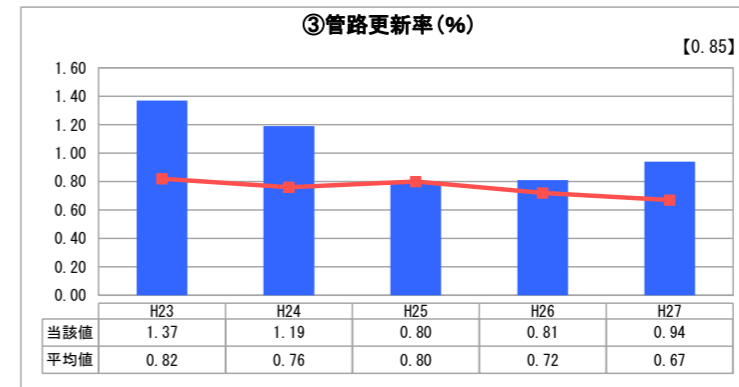
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率
100%を超え、類似団体等の平均値も超えている。必要な経費を料金収入で賄うことができる健全な経営状態であると分析できる。
- ② 流動比率
1年以内に支払うべき債務に対する支払能力について示すものであるが、平成30年度は施設更新のための企業債借入を予定しているため現金の減少が予想される。
- ③ 企業債残高対給水収益比率
類似団体等と比較し低い値となっているが、今後の施設更新計画に伴い、企業債借入も増えるため、数値の上昇が予想される。
- ④ 料金回収率
100%を超えており、給水に係る費用が給水収益で賄えている。経常収支比率とともに、平成26年度より数値が上昇しているが、これは会計基準の見直しにより、数値算出の際に長期前受金戻入分を含めたことによるものである。
- ⑤ 給水原価
給水原価は類似団体等の平均値を下回っており、低価格で水を供給していると言える。
- ⑥ 施設利用率
将来も人口の減少に伴う水需要の減少を踏まえ、ダウンサイジングを視野に効率的な事業運営計画を進めていく。
- ⑦ 有収率
施設、管路の適正な維持管理がなされていると分析できる。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率 ② 管路経年化率
類似団体等をやや下回っているものの、法定耐用年数に近い施設、管路が多く、老朽化は進んでいる。
- ③ 管路更新率
平成22年度から平成36年度までを老朽管(塩化ビニール管等)更新事業期間として、埋設年度や漏水発生状況及び他の事業等との調整を図りながら計画を進めている。
今後については、長期的な経営計画の策定が必要であり、その中でも老朽化対策は不可欠であるため、継続して行っていく必要があると考えられる。

全体総括

経営の状況としては、経営に必要な経費を料金で賄うことができる健全な経営状態であると分析できる。しかしながら、施設利用率が類似団体平均値等を下回っていることから、施設の効率性が低い水準にあり、施設や管路の老朽化率が年々進んでいると分析される。
今後については、人口減少に伴う水需要を考慮しながら、施設規模の見直しや老朽化した施設や管路の更新を計画的に進め、安定的な給水体制、経営の確立に努めていく。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。